

栃木県中体連卓球専門部 審判マニュアル



主審の仕事

- 試合前の規定練習時間を 1 分計測する。
- ジャッジを行う
- 得点したときは得点した方にわかりやすく手を挙げる
(グーにして)
- サービスがネットにかかり、コートに入った場合
→ 「レット (やり直し)」になるので、
手をまっすぐ高くあげる。(耳の近くで)
- ゲームが始まったらストップウォッチを使い計測する。
付けっぱなしで 12 分経過しても得点の合計が 18 点に
達していない場合は★促進ルールを適用する。
- ゲーム間は 1 分間計測をする。1 分経過しても選手がコート
に戻ってこない場合は、「タイム」とコールし、手を上げ、選
手に戻ってくるように促す。

副審の仕事

- 得点板の操作
 - 主審のジャッジに従い得点板をめくる。
- ※しかし、主審が誤っている場合は副審が確認をしてから
めくる。「今のはこっちだよね!？」
- 記録を記入する時はゲーム間の際に行う。
(個人戦のランキング決定戦及び団体戦など)

注意点およびやってはいけないこと

- ①判断に困ったときは主審と副審で話し合っ確認をする。
絶対に選手、顧問の指示を仰がないこと。
- ②得点のやり直しはできない。
- ③サービスの順番を間違えてもそのままにしない。(正しい順番に直すこと)
- ④団体戦の抗議権は監督にあります。監督から得点の確認があったらそれに応じる。
- ⑤個人戦の抗議権は選手にあります。選手から得点の確認があったらそれに応じる。



栃木県中体連卓球専門部 審判マニュアル

★促進ルールについて

1 ゲーム中に 12 分以上経過しても得点の合計が 18 点に満たない時は主審が手を上げ「タイム」と宣告する。

ラリー前：レシーブをする予定だった選手からサービスを
する

ラリー中：「レット」となり、サービスを出した選手からやり
直し

- 本部に「促進ルールに入ります」「ストロークカウンターをお願いします」と報告にくる。

○ストロークカウンターの仕事

- レシーバーの方を向き、「1・2……」とカウントをする。(選手に聞こえるように)
- 「1 3」のコールをし、そのボールが相手コートに入った場合レシーバーの得点となる。
- サービスは 1 本交代になり、そのマッチは全て促進ルールとなる。

～ボールが割れた時の対応～

- ラリー中に割れていると判断できた場合「レット」とし、新たなボールでやり直し
- 決まった時に割れた/割れていると判断した場合その得点を有効にし、新たなボールを用意する。

～コート外からボールが入ってきたとき～

- 迷ったら「レット」とし、手を上げる！
- 基本的にラリーの妨げにならなれば止めなくて良い。しかし、拾いに来た選手がラリーを止めることもあるので、その時は審判が手を上げる。(手を上げないとそのラリーは有効です)

～ダブルスのサービスの注意～

- 接地点がセンターライン上：有効
 - 接地点がセンターラインに触れない：アウト (相手の得点)
- 主審と副審で役割分担をしておくとうい。
- 例) 主審がネットにふれたかどうか。副審がセンターラインの判断など



審判マニュアルに載っていない事案が発生した場合や何かわからないことが起こった場合、不安な場合は審判長および副審判長に聞きに来てください。一番は選手がベストかつフェアプレーで試合ができることです。今回のものは動作(作法)がメインになります。ルールについては知っていることが多いと思いますので、省略しています。万が一、ルールのことでも気になることは大会の前に確認し、「全員がフェアプレー」で試合ができることを期待しています。

栃木県中体連卓球専門部 審判長 相田 康太

